

うんりゅうもんすか じ ろ くじょう け さ
雲龍文透し地紹九條袈裟

- ◇ 指定日 昭和55年3月4日
- ◇ 所在地 盛岡市(久昌寺)
- ◇ 所有者 大圓寺

つけたり でんいぞうき
附 伝衣贈記1巻及び・大衣帛紗
この袈裟は南宋時代のもので、山東省天寧
寺の芙蓉道楷（曹洞宗高祖六代）からの伝衣
であるとされ、「正法寺文書」によれば、貞
応2年(1223年)に入宋した希元道元が、嘉
禄3年(1227年)の帰国の際に相称の大衣と
して授けられたとされており、奥州市水沢黒
石町にある正法寺に伝承されてきました。



左端 100.5cm 右端 117.5cm

寛政6年(1794年)に大圓寺が火災に遭って記録・宝物等を焼失したため、文化2年(1805年)に大圓寺を再建した際に、本寺である正法寺からこの袈裟が贈られました。

応永元年(1394年)に正法寺の僧であった月泉禅師が大圓寺を開山した際に、この袈裟を着用したとされています。